

思考する必然性のある場面で 児童のパフォーマンスを見取る

POINT 1 コミュニケーションを行う目的・場面・状況の設定

新学習指導要領では、言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地・基礎となる資質・能力を育成することを目指しています。コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を設定することで、「こんな目的のときには、どんな表現だと伝わるかな?」「この人にはどんなことを言ってあげると喜ぶかな?」「こんな場面だったら、どんなふうに言えば自然かな?」と、児童が思考・判断・表現します。児童にどのような力を身に付けさせたいか教師が見通しをもち、指導と評価の計画を立てていきましょう。

コミュニケーションを行う目的、場面、状況が明確でないとき…

「自分の町を紹介しよう。」
This is my town.
We have a station.
We don't have a park.

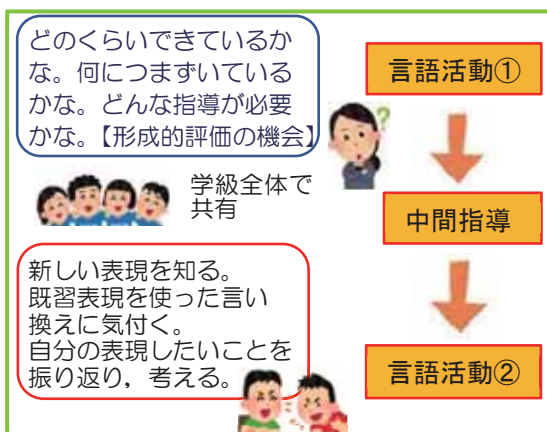


「町長さんに自分たちの町紹介を聞いてもらおう。」
This is my town.
We have a station.
It's nice.
We don't have a park.
I like playing with my friends.
I want a big park.

もっとくわしく、町紹介してみたいな。どんな表現を使って話そうかな。



POINT 2 中間指導で、いま何ができて何ができないのかに気付く



思考・判断・表現を見取ることは、主体的に学習に取り組む態度を見取ることにもつながります。そのためには、やり取りや発表などパフォーマンス活動を多く設定し、その中で、どの程度目標に近付いているかを見取りながら評価していくことが求められます。言語活動の途中で、課題を共有したり解決したりするための「中間指導」を行うことで、教師も児童も、「いま何ができて、何ができないのか」を知ることができ、その後の言語活動では、さらに発展的なやり取りができるようになります。

POINT 3 児童の振り返りを、指導改善・学習改善に生かす

学習後の児童の振り返りが単なる感想ではなく、自らの学習を調整する力や、粘り強い取組を行う力につながるように、以下のような視点をもって点検や分析をし、指導と評価の一体化を図ります。

(1) 教師の指導改善につなげる

授業のめあてと関連付けた気づきが児童に見られたか、最終ゴールに向けて児童に変容が見られたか、などを見取ります。

(2) 児童の学習改善につなげる → 主体的に学習に取り組む態度

授業で何に気付くことができたのか、何ができるようになったのか、次に改善したいことは何かを、児童自身が振り返ります。

4学年

「学校紹介マップをつくり，ALT の先生にプレゼントしよう」

外国語活動実践事例

単元名：“This is my favorite place.”

(Let's Try! 2 Unit8)

目的・場面・状況を明確にした言語活動を通して，児童の気づきを促す。



評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話し表現	<知識> 教科名や教室名，道案内の仕方について理解している。 <技能> 教科名や教室名，道案内の仕方についての言い方に慣れ親しんでいる。	ALTに学校の英語マップをプレゼントするために，自分が気に入っている校内の場所について伝え合っている。	ALTに学校の英語マップをプレゼントするために，自分が気に入っている校内の場所について伝え合おうとしている。

POINT1 必然性のある場面を設定する

「自分たちの学校を紹介したい。」という児童の意欲を高めるためには，どのような場面設定が必要かを考え，まだ学校に来たばかりのALTの先生に（相手），自分たちの学校をよく知ってもらうために（目的），英語のマップを作成して，紹介しよう（場面）という言語活動を設定した。

POINT2 児童が話した内容を評価し，互いの気づきの中から正しい表現を身に付けさせる

児童同士のやり取りの様子を教師が見取り，活動の途中に学級全体で共有したい課題を取り上げた。全体で共有することで，児童が気づき，「自分の言葉」として伝え合うことができるようになった。また，他の児童も，自分の表現を再考する機会となり，その後の言語活動がさらに充実した。

My favorite place is playground. I like baseball. D君

思考・判断・表現：おむね満足できる状況 (B)

I like run. D君

クラスの様子を見ると My favorite place is ~ は言っているけど，理由を話すのが，難しそうだ。D君の伝えたい内容を学級で共有しよう。

Nice! I like running. (説明をするのではなく，正しい表現にして言い直すことで児童の気づきを促す。)

友達と話していたら，もっとくわしく話したくなった。走るのが好きって何て言ったらいいのかな。 D君

走るってなんて言ったらいいと思う。

Run!

My favorite place is playground. I like baseball. I like running. D君

思考・判断・表現：十分満足できる状況 (A)

POINT3 点検と分析を効率よく行う

振り返りカード点検→振り返りカードに記載された児童の自己評価が，指導者の見取りと違った場合，次時の授業で児童の自己評価の内容を指導に生かすこと。

振り返りカード分析→授業中の児童の行動観察だけでは見取れない場合，「振り返りカード」に記載されている内容を分析し，児童の様子を捉えるようにすること。

～児童の振り返りカードより～

○授業で気づいたこと・次にかんばりたいこと
 ・〇〇先生が，私の発表を「オ～！」と言いながら聞いてくれてうれしかった。〇〇先生の表情を見て，私も表情をかえながら，発表するように気がついた。プレゼントしたマップを喜んでくれてうれしかった。

【振り返りカード分析】

単元の最終ゴールで，ALTに好きな場所を紹介した。ずっと紹介したい相手であったALTの反応を意識しながら，発表しようとしていたことが，振り返りカードのコメントから分析できる。

主体的に学習に取り組む態度：十分満足できる状況 (B)